

# やなかわ

YANAGAWA 2011. 12月1日  
No.161

## 今号の内容

◆水辺と人といきもの	ページ
◆おいでメッセ柳川がオープンほか	2~5
◆與田博利さんバス2台を寄付ほか	6~7
◆秋の叙勲ほか	8
	9
◆市民のひろば(10-11) ◆川柳(11) ◆図書館・水の郷ニュース、柳川百選まち歩き(12-13) ◆情報わいど(14-19) ◆がんばったね・ぬくもり(19-20) ◆もちふみデビュー(21) ◆保健ガイド(22-23) ◆新市史抄片(24)	



## 水辺に歓声 堀干し初体験

私たちのまちの象徴的な景観をつくっている掘割。先人たちは長い年月をかけて、豊かな実りを得るため、そして災害から地域を守るために、独自の機能を発達させてきました。この掘割の成り立ちや、水環境の大切さを後世に伝えるために11月12日、蒲池水辺公園で堀干しまつりが行われました。まつりでは、公園脇の掘割の水が落とされ、昔ながらの魚捕りを再現。蒲池中学校の野球部の生徒も、ダバと言われる胸まであるゴム長靴をはき、泥に足を取られながらも魚とりを体験しました。

## 本小路稽古場 藩校伝習館の前身

新

市史抄片

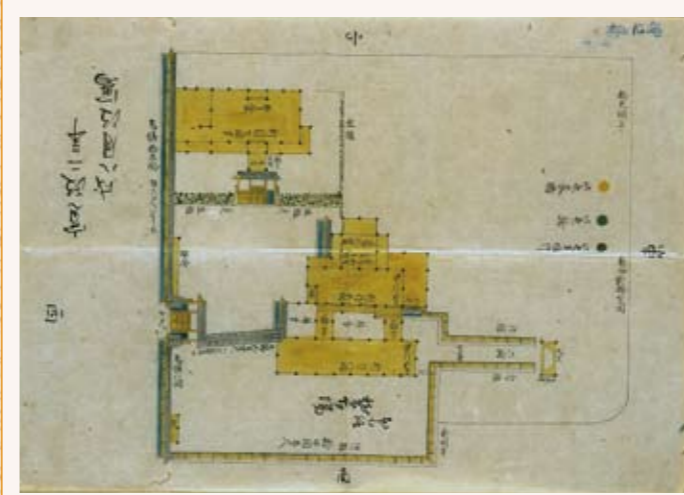
81

問い合わせ  
市生涯学習課市史編さん係

☎72・1275

文政七年(一八二四)に九代藩主立花鑑賢によって設立された藩校伝習館の存在は、多くの人がご存じだと思います。しかし、この藩校伝習館の前身である稽古場という施設を知っている人は少ないかもしれません。

稽古場については、伝習館高校の『創立百七十年・県立移管百周年記念誌』などに若干記載がありますが、宝暦年間(一七五二〜一七六四)の設立と



れ、明確な設立年次は記されていません。しかし、「立花家記録」という史料から、宝暦九年(一七五九)の設立であることが分かります。史料には稽古の内容も示されていて、安東多記による儒学のほか、稽古の名が示す通り剣術・居合などの武術も行われていました。また、一か月のうち、一日、十七日、三十日を除く日はすべて、稽古が行われていたようです。稽古は、午



【上】寛政二  
年の稽古場  
面図【左】  
現在の市役  
所駐車場に  
在る稽古場  
跡地。入口  
付近に藩校  
館跡の石柱  
が建っている

前十時から午後二時までと、午後二時過ぎから日没までの一日二交代制となっていました。

設立の翌年の宝暦十年には、稽古場に聖堂が建立され、毎年二月上旬の丁の日に「君民豊富・国家安全」の祭りをを行い、その際には誰でも参詣することができるとされています。これは、孔子を祭る祭典の儀式と考えられます。また、明和七年(一七七〇)には、聖堂に藩から「御書物」が差し出されて、安東幾治が管理して、藩士などへの貸し出しに対応する旨が触れられ、聖堂にさながら図書館の機能が付与されていたことが分かります。

このようにして始められた稽古場でしたが、どのような理由か分かっていませんが「次第に衰微」し、二十数年後には閉鎖されてしまいました。現段階で、閉鎖の年次を確定することはできませんが、寛政二年(一七九〇)の稽古場の平面図があるので、この時点で少なくとも建物は残っていたことが分かります。その場所は、現在の市役所柳川庁舎東側の駐車場に当たります。

市史編さん係 白石直樹

## 編集後記

●雑草という名の植物はない。植物に詳しくた昭和天皇のお言葉とか。特集の取材で、普段、見過ごしていた草が、この地域にしか自生していない希少種だと知った。そのほとんどは、人との微妙な関係の上で、種を維持している。いつまで見ることができるのか。少し心配だ。

●最近、4歳の次男が「父ちゃん元気で留守がいい」という言葉を覚えた。何からの影響で覚えたのかはなんとなく想像がつくのだが、確かに土日関係なく、仕事で家にいないことがほとんど。家族からは、ある意味諦められているのだから、ちよつと寂しい父ちゃんであった。(賢治)

●3年ぶりに再会した友人が20キロもやせていた。ダイエットを決心して半年で成功したらしい。秘訣を尋ねると「やる気」の一言。俺もやる気を出して禁酒しようと思ってるが、ビールの誘惑に惨敗。俺の気持ちの弱いのか、お酒が美味すぎるのか、今日もお酒を片手に考えよう。(和久)

## 人のうごき

平成23年10月末現在  
●人口 71,695人(前月比-17)  
男 33,953人(-1)  
女 37,742人(-16)  
出生 50人、死亡 68人  
転入 123人、転出 122人  
●世帯数 24,645世帯(+45)